

復興まちづくり懇談会の開催結果報告

1. 講演 「明るいまち、釜石をつくろう」(講演者：建築家 伊東豊雄)

開催日時 平成 23 年 8 月 6 日(土) 12:00 ~ 13:00

開催場所 沿岸広域振興局 4 階大会議室

参加者数 59 名

1.1 講演の位置づけ

海岸線や坂を活かした世界の美しい都市の事例を上げながら、伊東豊雄氏の夢のある釜石の将来像、まちづくりのアイデアを語る。

1.2 講演内容

(1) 今治でのプロジェクト紹介

- ・今治市に伊東豊雄建築ミュージアムがオープン。鵜住居小学校の生徒 10 名を今治へ招待し、現地小学生との交流を図りながらの建築ワークショップを開催した。
- ・今治の子供 700 人が描いた「みんなの家」の絵を紹介した。

(2) 「みんなの家」の事例紹介

- ・伊東氏は熊本県のアートポリス事業のコミッショナーであることから、熊本県が、熊本の木材、職人を供給し、仙台市の宮城野区の仮設団地に「みんなの家」第 1 号を建設中である。

(3) 「みんなの家」の進め方

- ・住民が集まり、相談できる場所をつくってはどうか。新築に限らず、被災した建物を仮囲いするののも一つの案である。これからまちをどう創っていくか語り合える拠点、自由に集まれる空間をつくる。



(4) 「みんなの家」の具体的な提案

- ・「みんなの家」の例（伊東氏の昔からの考え）

桜が咲くと、自然に人々が集い、一時的に設置する幔幕の囲いの中で宴を開き、元の自然に戻る。これも建築の原点の一つであると考える。

- ・釜石の「みんなの家」を建築家難波和彦氏が提案。角材を縦方向に組むログハウス。鈴子広場内のバス停近くに建設の予定。他、大只越公園に計画中。

(5) 坂の美しい街

- ・今後、釜石は高台の活用が必要になる。しかし、単に安心・安全だけでは良い街の実現には繋がらない。空間的な工夫が必要となる。坂を活かすことが重要である。たとえば、

尾道の坂：坂道からの海の眺望が良く、若者が「坂を歩く」という目的の為に訪れる。

長崎の坂：美しい景観の坂。

函館の坂：海や船が見える景色。全てが良い景観となっている。

いずれも、坂の町を楽しむために、各地から人が訪れている。

(6) 斜面に住む

- ・釜石の斜面で居住が可能か、伊東塾で検討を重ねている。

例えば、ギリシャのサントリーニ島は、インフラ先行ではなく、住居とインフラが一体となり集落を形成している都市である。防災面の配慮を施しつつ坂道を活かすことで、魅力的な街区が形成できる。景観の統一により美しい街並みが生まれる。地形を細かく読み解くことが鍵となる。

(7) 東部地区、鵜住居地区における斜面居住の検討

- ・東部地区の斜面は、30度という急傾斜。伊東塾の塾生が煉瓦を積み重ね



たような建築を提案。鵜住居の谷合は景色が良い。獅子踊り、産直など魅力的な資源も多いことから、谷側に沿った集落の形成が実現可能か検討している。

(8)市場の提案

- ・バルセロナには方々に市場があり、カジュアルな市場で賑わっている。建築家が古い市場の屋根を葺いただけで名所になった。マルセイユの陽射しを釜石に取り込むなど、参考にしたい事例も多々ある。
- ・釜石東部地区の商店街再生に活かせるような町として、アルゼンチンのポタ地区の事例。芸術家が古い建物の壁をトタンで囲い、カラフルに仕上げたことで、観光客が世界中から訪れるようになった。被災して建物が部分的に無くなったことで残存建物の側面が露出したため壁面を活用することも考えられる。

(9)コミュニティセンターとしての学校

- ・熊本県宇土市の小学校改築事例。少しの工夫をすれば、通常の公立学校と同じコストで魅力的な学校が建設できる。

(10)スタジアムのある街

- ・伊東事務所設計の台湾の高雄のスタジアムの事例。締め切らず、都市に対して開放した設計。自然の風が抜けるスタジアム、ソーラーパネルで遮光、暑さ対策を行っている。

(11)みんなの家からみんなの街へ

東部地区

魚市場 商店街の人の流れと津波防御を考える。呑兵衛横丁の桜並木を提案。あおば通りや市役所を整備し、更に魅力的な坂のある街を考える。あおば通りの都市下水路は、常に水が流れる工夫をしたらどうか。市役所周



辺に緩やかにカーブする坂ができれば美しい景観が想像できる。中番庫にガレキを覆土したマウンドを造り、緑化することも考えられる。斜面の山裾に沿ったコンクリート建築も考えられるのではないかな。

鵜住居地区

スタジアムに防潮機能を付加したものとし、簡易なマウンドと芝のスタンドを考えてはどうか。また、幹線道路を嵩上げし、斜面にも住宅を配置して居住地を確保してはどうか。



2. 復興まちづくり懇談会開催概要

開催日時 鵜住居地区：平成 23 年 8 月 6 日（土）13:30～17:00

東部地区：平成 23 年 8 月 7 日（日）10:00～14:00

開催場所 沿岸広域振興局 4 階大会議室

参加者数 鵜住居地区 59 人 東部地区 29 人

開催目的 復興まちづくり計画を策定するにあたり、広く市民の意見を伺い参加者の意見交換により、ほかの考え方を考慮して方向性を住民主体となって考える。

2.1 鵜住居地区での意見

【地域の資源を見直し活用】

- ・海岸沿い、ビオトープなどの資産を有効に活用。都市機能とビオトープの境界に防波堤機能を設置し、桜並木などをつくる。箱崎半島の資源を有効活用する。
- ・公園として土地利用する場合は、ゾーン分けをして使い方を变える。例えば、バーベキューが出来る場所、メモリアルパーク、花見スポットなど、通常時は公園とし、イベント時はスタジアムとして利用するなど。）

【道路】

- ・三陸縦断自動車道への避難時アクセス等、避難道路の整備が必要。釜石市街地とつながる道路が重要。
- ・三陸縦貫自動車道の早期整備が必要。
- ・国道 45 号の嵩上げ。昭和三陸津波の時点で堤防はなかったが、死亡者がいなかった。てんでんこの言い伝えが生きていた。今回はハードに頼りすぎた。

【まちづくり】



- ・学校：まちづくりの中心がよい。（子供が多い地区の近くが良い。）

今回の震災は子供が学校にいる間に起きた。迎えに行き被災した人もいる。安全な場所に子供が居ると分かっていたら防げた事態。小学校は非浸水エリアの高台へ。防災機能との一体化が必要。分散案も一部あり。

- ・駅：嵩上げを基本と考える。利用者の多くは、高齢者と高校生。学校の位置と一緒に考える。

- ・都市機能：三陸縦貫自動車道のIC周辺に集約するのが良い。

商業地はたくさんいない。人口減少。車社会なので、市街地へ買い物に行くことができる。高齢化を考慮する。

- ・公共施設：設置場所については今回の被災状況を十分に分析することが必要。公共施設は、分散させることで避難場所が増え、より安全である。

【避難】

- ・子どもたちが大人よりも避難行動が迅速だった。
- ・地形による津波の高さ確認。ハードに頼りすぎたことを反省することが必要。被災しなかった原因を調べる。
- ・今回は情報が不足して困った。情報伝達等のソフト対策も重要。

【その他】

- ・コミュニティーづくりが重要（新たなコミュニティーの形成や話し合いの場が必要）
- ・ここに戻ってこられるか、土地利用はどうするか、早く知りたい状況。
- ・ワークショップなどの情報も含めて、復興に関する情報発信が不足。
- ・終の棲家として時間が間に合うのか、復興のスピードを早めるべき。

【現状の課題】

- ・仮設住宅間の道路が不十分。買い物、通学の道路の改善。在宅介護の方々の利便性の改善。



- ・ 仮設住宅に行く道に街灯がない。真っ暗な中を女子高生が通学していて危険。
- ・ 箱崎半島の、灌水する道路の改善。



2.2 東部地区での意見

【産業、商業】

- ・スピードある復旧を。商店が困っている。どうしたらよいか分からない。
- ・観光PR、魚市場活性化。俺たちは海で育った。海が中心。魚の街。
- ・高台から見た景観が、釜石らしさをあらわす。
- ・商店街は歩車分離にして人が歩ける通りとする。呑兵衛横丁周辺は桜並木にする。
- ・商店街は、復興住宅とリンクさせる。
- ・働くことが必要。漁業で活気が出る。浜の活性化が必要。
- ・若い人の遊ぶ場が求められている。震災を機に戻ってくる人の活用。
- ・地元の声を大切にしてみちづくりに取り入れる。
- ・商業。多目的なビル。映画館やいろいろな複合的、集客力ある施設。

【安全】

- ・まちの守り方は、防波堤の高さが決まっていなくて分からないので話せない。
- ・避難：山に逃げるのを基本。避難道路整備が必要。
山から遠い場所は、避難ビルを設置。避難ビルをつなげて山に逃げる手段を確保。
- ・防潮堤の水門は、重くて閉じられないため人力でない方法があると良い。
- ・防潮堤、湾口防波堤は最低現状復旧が必要。
- ・盛土：土木工事で作るものより建築の方が景観的にも良く見える。

【住まい】

- ・永年住んでといたところに戻り、住みたい。そこが住めるかを早く示してほしい。復興住宅を避難ビルとして整備し、商店などを加え複合ビルにする。



【その他】

- ・この会議は何回もやっているが前進していない。会議の仕方を変える必要がある。たとえば、行政側がまちに出て話を聞く、コミュニティーから具体的な提案を聞く。被災程度により考えが異なる。被災状況に応じた話し合いも必要。コミュニケーションが重要。
- ・命を守る真剣さが足りない。
- ・「まちづくり」とはどういうことか、まちづくりより生活が第一。
- ・市民の意見を聞くことに関して、市が意思表示していないので困惑している。
- ・避難所の情報が不足。
- ・今の安全も確保してほしい。信号がないので子供が安心して歩けない。交通事故の心配。

